

『AYA 支援チームのモデル作成に関する研究』

研究分担者 石田 裕二 静岡県立静岡がんセンター 小児科 部長
研究協力者 津村 明美 静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師

研究要旨

AYA 支援チームのモデル作成に関する研究である。今年度の AYA 支援活動として 4 点について報告する。①施設内での AYA 支援チームの活動に関する事②施設外の医療施設との連携③行政と地域の医療ネットワーク構築④対外発信

AYA 世代の支援については、既存の臓器別診療によってもたらされる様々な医療資源が有効に活用される必要があるが、これらに加えて、AYA 世代独特の共通するケアの提供については、支援チームのような臓器横断的な活動が、この世代の需要を早期に拾い上げ、支援に結びつけ、妊孕性に関することなど自施設内で提供できない支援内容については、広域の活用できる医療財源と結びつける方法を確立し、そして地方行政などと一体になった、地域特性を生かした体制作りが重要と考えられる。院内支援チームの熟成、地域ネットワークの活発化、行政との意見交換などが有効であった。

A. 研究目的

- ①院内の診療実態の把握
- ②病院主催の AYA 世代のがん患者へのピアサポート
- ③AYA 世代支援のリンクナース制度の確立
- ④地域連携としての AYA 支援
- ⑤AYA 世代診療に関する対外発信

B. 研究方法

- ①電子カルテによる、網羅的な実態把握を実施した。また、リンクナース等からの報告、支援チームによる院内のラウンド活動による個別症例の把握を行った。
- ②ピアサポート：当事者の横のつながりを支援することを目標に実施
3年目の今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響を受けて、初年度および2年目に行っていた、座談会形式の開催を断念して、ZOOM を利用した、遠隔での開催を行った。
- ③AYA 世代支援のリンクナース制度の確立：AYA 世代の入院患者の支援として、各病棟で、AYA 世代支援の中心となるリンクナースを指名し、AYA 世代の悩みのスクリーニング、その需要に応じた専門チームへの結びつきを図るという制度を、病棟の拡充、病棟ラウンドの定期化などとともに実施した。リンクナースの会合も実施した。
- ④地域連携 県内の大学病院（浜松医科大学）、小児病院（静岡こども病院）、地域の総合病院（静岡県立総合病院、聖隷病院）、静岡県の医療行政担当者との会合をもち、地域連携で行うべき連携についての具体的な方策について議論し、行政支援についての意見交換も実施した。
静岡版 AYA 世代支援ネットワーク構築のためのワークショップの一環として、高校生の復学支援に関しての多施設共同の患者参加型ワークショップを行った。
- ⑤AYA week 2021 への参加 これは、施設内での AYA 世代診療に対する管理者の理解の掘り下げ、診療各科の活動の相互理解、多職種での病院全体の取り組みの理解という院内目標と体外発信を目的に実施した。

C. 研究結果

- ①実態把握 地域がん登録から、2016 年～2018 年の 15-29 歳の新規患者数 53 名（年平均）、同期間 15-39 歳 226 名（年平均）総数では 30 歳以上の症例数の多さが確認された。個別症例の問題の拾い上げに、病棟ラウンドは有効であった。
- ②座談会は、初年度から 2 年目で行っていた内容を網羅することは出来なかったが、遠隔 ZOOM を使用した、高校生の就学、復学に関する議論は、実体験に基づいた話題、ピア同士での共感および個別性の重要性について有意義な議論となった。
これらを匿名化する方法で、映像処理をして、本人達の同意を得て、AYA week 2021 での映像配信を行った。
- ③支援チーム 支援チームの活動としてのリンクナース制度を開始したことにより、AYA 世代支援の問題のスクリーニングを開始、これらに対する対応を開始することが出来てきた。
- ④地域連携 静岡県がん診療連携協議会内に「小児・AYA 世代がん部会」を創設して、本年度も会合を行った。
AYA 世代の長期フォローアップや、財政支援についての具体的な支援について、内容、計画について意見交換を行っ

た。妊孕性温存等の支援事業につながり、県内の多くの市町で実現された成果は大きいものであった。静岡版 AYA 世代支援ネットワーク構築のためのワークショップでは、医療行政側のみではなく、教育行政に関わる立場の方にも出席頂き、法整備の進捗状況をふくめて、ICT を利用した、教育支援について議論し、これらの内容を公開したことの意義は大きい。

⑤AYA week 2021 病院長を含めて、多診療科の映像配信、AYA 世代の緩和医療に関するシンポジウムも実施した（配信内容は実績に記載）。映像配信では、AYA 世代診療の現状報告や、未来編提言も含めて、がん専門施設として多くの発信を行った。シンポジウムでは、がん専門施設、地域での緩和医療実施施設、こどもホスピスの活動などについて報告し、これらの連携についても議論した。

D. 考察

AYA 支援に必要なニーズを把握し、新しい支援の取り組みを行ってきたが、院内チームの存在、他施設との連携、行政との連携などが、支援を継続的に取り組むためには、必要な条件と考えられた。本研究班が、AYA 世代診療を支えるチーム医療の構築に、病院管理者への適切なアピール、行政への働きかけ、そして AYA 世代がん患者の実態を聞き取りや情報交換に、公的基金の支援した組織として実施可能となった要素が大きく、AYA 世代支援の公的な広域かつ広範囲な提言を行うことの出来る組織の重要性を感じた。

こうした活動が普及するには、なんらかの診療報酬加算などでの支援も重要で、AYA 世代に追加の負担にならない財源について検討するべきと考えた。

E. 結論

AYA 支援を構築する様々な資源を充実することの重要性と共に、これらの資源を結びつける支援チームの存在は、多職種により治療やケア全体を俯瞰するためにも重要である。その普及、効率的な運用が望まれ、施設や地域の特性を生かした方法について研究が必要と感じられた。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

その他

出版物

がん化学療法ケアガイド 第3版 第三章 pp88-101

3. AYA 世代に対するケア

①AYA 世代の患者に対する意思決定支援 石田裕二

②未成年のこどもをもつがん患者に対する支援 阿部啓子、石田裕二

「AYAwEEK2021」発表の概要

3/13 (土) :【ライブ】第2回 AYA 支援ワークショップ

「高校教育について考える」オンライン開催

3/14 (日) :【ライブ】オンラインミニシンポジウム

「難治性 AYA がん患者の QOL を考える！」

3/15 (月) :「SCC の AYA がん医療のいまと未来」動画配信

上坂克彦 (病院長) : 静岡がんセンターの AYA 世代のがん医療

石田裕二 (小児科) : AYA がん医療の概要と実際

3/16 (火) :「AYA がんをうまく治す～Part I」動画配信

片桐浩久 (整形外科) : 整形外科で治療する AYA 世代のがん (骨・軟部肉腫) とその治療

出口彰一 (脳外科) : AYA 世代の脳腫瘍～胚細胞腫瘍について～

池田宇次 (血液内科) : AYA 世代の白血病と移植医療

尾上剛士 (放陽治センター) : 放射線・陽子線治療

3/17 (水) :「AYA がんをうまく治す～Part II」動画配信

坂東悦郎 (胃外科) : 静岡がんセンターにおける AYA 世代胃がんの現状

西村誠一郎 (乳腺外科) : 若年性乳がん・妊孕性

笠松由佳 (婦人科) : 子宮頸がんの予防と早期発見

小野澤祐輔 (原発不明科) : AYA 世代と希少がん

3/18 (木) :「若者たちの未来を支えるサポーターケア」動画配信

清原祥夫 (多職種チーム医療推進委員会) : SCC 多職種チーム医療推進委員会による支援～AYA・こどもサポートチームの発足・起動と多職種チーム医療推進委員会の関わり～

御牧由子 (よろず相談 MSW) : AYA 世代のがんの闘病生活について～治療中の教育や就労などの社会生活への支援～

栂場美穂（緩和医療科 心理士）：AYA 世代の「こころ」のこと～心理社会的な支援について～
池内晶哉・川岸佐和子・杉山洋介（薬剤部）：抗がん剤治療と晩期合併症について
岡山太郎（リハビリテーション科 PT）：小児、AYA 世代における身体活動量の重要性について
田尻寿子（リハビリテーション科 OT）：AYA 世代・ライフステージに必要とされる「生活行為」への支援～作業療法士（リハビリテーション科）のかかわり～
的場めぐみ（看護部）：若年性乳がんと妊孕性～AYA がんをうまく治す～
3/19（金）「治療中だからってあきらめさせない。若者たちの夢と希望をまもる」動画配信
松本貴也（看護部）：6 東病棟の紹介（AYA 世代病棟）
西本恭子（小児科 CLS）・津村明美（看護部）：多職種協働による AYA がんチーム医療の体制～AYA 患者さんをチームで支える～
常石悠子（小児科 CLS）：こどももケアの輪の中に～こどもを持つがん患者さん・ご家族への支援～

H. 知的財産権の出願・登録状況
特記事項なし